

# 令和元年度(2019年度)石狩管内社会教育共同事業 「社会教育関係職員等研修会」

テーマ 社会教育の基礎と学びとその技法  
～社会教育のスタートライン～

## 報告書



千歳市 HP より

**期 日** 令和元年(2019年)7月12日(金)  
**場 所** 千歳市民文化センター(北ガス文化ホール)

**主 催** 石狩管内教育委員会協議会  
**主 管** 南部ブロック実行委員会  
(千歳市教育委員会・恵庭市教育委員会)

## 「社会教育関係職員等研修会」

### テーマ 社会教育の基礎と学びとその技法 ～社会教育のスタートライン～ 開催要項

- 1 趣 旨
  - ・社会教育行政職員や関係者が地域の実践事例などをもとに、今日的な社会教育・生涯学習の在り方についての理解を深める。
  - ・管内の社会教育上の課題について共通理解を図るとともに、共同で課題解決を図るための方策について協議し、市町村間の連携を促進する。
- 2 テーマ 社会教育の基礎と学びとその技法
- 3 主 催 石狩管内教育委員会協議会
- 4 主 管 千歳市教育委員会 恵庭市教育委員会 南部ブロック実行委員会
- 5 対 象
  - (1) 石狩管内市町村教育委員会に所属する社会教育・文化・スポーツ担当職員
  - (2) 社会教育関係団体、社会教育委員など社会教育関係者
  - (3) 市町村及び市町村教育委員会各部局・部署職員
- 6 日 時 令和元年（2019年）7月12日（金）10:30～17:15（受付開始10:10）
- 7 会 場 千歳市民文化センター（北ガス文化ホール）視聴覚室（千歳市北栄2丁目2番11号）
- 8 日 程

10:10	10:30	10:45	12:00	13:15	14:05	14:20	16:20	16:30	17:10	17:15
受	開	講	昼	説	休	演	休	情	閉	
付	会	演	食	明	憩	習	憩	報	会	
	行							提		
	事							供		

- 9 内 容
  - (1) 講演「社会教育の基本的理解と推進の視点」
    - ◇ 社会教育の基礎となることについて、お話しいただきます。
      - ・講師 札幌国際大学 スポーツ人間学部 教授 佐久間 章 氏
  - (2) 説明「グループワーク討議の技法について」
    - ◇ 合意形成のためのファシリテーション等についてご説明いただきます。
      - ・講師 GOOD? WORKSHOP 溝渕 清彦 氏
  - (3) グループワーク「グループワークを通じた学びの実際」
    - ◇ グループワーク（体験型ゲーム）を楽しみながら参加者が学ぶ体験をします。
  - (4) 情報提供
    - ◇ 情報提供
      - ・各市町村教育委員会、各団体等から情報提供をいただきます。
      - ・自由に情報交流ができる時間を設定いたします。
- 10 参加費 無料
- 11 申 込 別紙参加申込書により、7月1日（月）までにメール、FAX、郵送等でお申し込みください。
- 12 お問い合わせ・申込先
 〒060-8549 札幌市中央区北3条西7丁目道庁別館6階  
 石狩管内教育委員会協議会社会教育共同事業事務局 国枝、加藤  
 （北海道教育庁石狩教育局教育支援課社会教育指導班）  
 メール katou.masashi3@pref.hokkaido.lg.jp  
 TEL：011-204-5879 FAX:011-232-1061
- 13 その他
  - (1) 「情報提供」において、全体にて情報提供を行う場合は事前に事務局までご連絡ください。（資料の部数、時間等の調整をさせていただきます。）
  - (2) 昼食（お弁当）の斡旋はしていません。昼食時間を長く設定いたしましたので、会場周辺の飲食店等をご利用ください。

## 10:30~10:45 開会行事・オリエンテーション

開催地あいさつ 千歳市教育委員会教育長 宮崎 肇 様  
オリエンテーション 千歳市教育委員会生涯学習課主任 川崎 美 幸



開催地を代表して、千歳市教育委員会の宮崎教育長から挨拶をいただいた後、千歳市教育委員会川崎主任から、研修会開催の趣旨、日程等について説明を行った。

その後の進行は恵庭市教育委員会社会教育課桑原主査が行った。

## 10:45~12:00 講演 演題「社会教育の基本的理解と推進の視点」

講師 札幌国際大学 スポーツ人間学部 教授 佐久間 章 氏

### 1 社会教育の特質

一般的に社会教育関係職員等に対するイメージは「いつも何かイベントを行っている。」

「人集めに非常に苦労している。」「土日も昼夜も関係なく動いている。」「地域の人と付き合いがうまい。」「宴会が非常に多そうだ。」「一芸を持っている。」「話がうまい。」「コミュニケーションが上手。」といったところである。どうしてこのようなイメージをもたれるのか。

〇〇教育というものはたくさんある。学校教育、家庭教育、環境教育など教育とつくものが多い。

教育活動とは、次の3点があるものである。教える人がいる。学ぶ人がいる。目標がある。学校では先生、生徒（児童）、目標（学校、学級、授業目標）である。当然ながら社会教育においても3つのことがある。

一方、学習について。〇〇学習はどのように定義されるのか。新しい知識・技能・態度が結果として身につくものであり、読書、単語を覚えるのも学習である。〇〇セミナーに参加して知識を得ることも学習であり、公園を散歩中に花と出会い調べることも学習である。学習という広い範囲の中に教育があり、教育の中に社会教育が入るような状況をイメージしてほしい。そのように考えると、社会教育と生涯学習は同じものではない。全てを含むのが生涯学習であり、社会教育法を要約すると社会教育は学校以外での教育活動となっている。教育全体から学校教育の部分を取り切ったものが社会教育となる。人間の一生では社会教育（家庭教育、学校教育は短い期間）が長く続く。社会教育が人生の大部分を占める。

社会教育と学校教育を比較してみると、社会教育では学ぶ場所が決まっていない、時間もきまっていない、対象者も決まっていない、学習内容や学ぶ方法も決まっていない。また先生が固定されていない（子どもから大人までみんな先生である。）。また地域状況によって実施内容も異なり、誰に何をどのように教育するかが決まっていないのが社会教育の一つの特徴である。また、社会教育への参加は自由であり、参加を強制することはできない。



## 2 社会教育行政と一般行政

地域課題、必要課題、現代的課題など、社会教育でもそれらの課題を解決していく。このことは教育基本法に明記されている。個人の要望、要求課題に応えられる事業は民間にはたくさんある。（場がたくさんある。）しかし、民間は社会が求める課題には手を出さない。そこで課題を放って置くわけにはいかないので、行政の対応が必要となってくる。

社会教育では直接的に地域課題を解決することはできない。高齢者の孤独死問題、児童虐待の問題など、簡単に解決できないが、住民を介して地域課題を捉え、住民が課題に立ち向かう力をつけさせることで課題の解決を目指す。

直接の解決をしないのが社会教育行政であり、住民を通して地域の課題にアプローチし、住民により解決できる力をつけるのが社会教育である。

## 3 これからの社会教育の視点

### ①行政から住民へ

道路に穴が空いているとする。穴を塞ぐためにどうするのか。行政がいつまで穴を埋めるのか。いつまでやるのか。住民に必要な道具、技術、体力を身につけてもらい、直してもらおう。道路に穴が空いている。行政が埋める。このような繰り返しは今後いつまで持続できるのか。

穴を埋める道具、技術、体力を住民が持てば、自分たちの力に対応できるのではないのか。この視点が大切である。行政から住民へ、行政がやっていたものを住民が担えるようになることが大切。

人材を「発掘する。」から「育む。」へ。事業は「参加する。」から「参画する。」へ。成果は「享受する。」から「提供する。」へと変わっていかなければならない。お客にならないよう、要求ばかりではなく住民が計画づくりから参加する。自分たちから情報を提供する。持っている力を提供する。

社会教育主事は黒子であり、主役は住民である。社会教育主事は黒子に徹し、住民のやる気、行動に火をつける。住民が燃えるのをあおる。そして持続可能な住民主体の取り組みを推進する。

### ②包括的アプローチ

これまでの社会教育事業では対象別にアプローチしてきたものが多かった。高齢者、青少年、家庭教育、子育て中の保護者など、対象者を別にした事業を行うことが多かった。社会教育の課題として挙げられることが「参加してほしい人、社会教育が必要な人に、参加を強制することができない。」ということである。学習の機会が必要な人に、届けることが難しい。

家庭教育を例とすると、子育て支援、親子関係支援、子育て環境づくり支援など、対象者を子、親、親子、親子を取り巻く関係者まで広げると、包括的になってくる。これからは、対象者を限定しない包括的な事業が求められる。

## 4 社会教育関係職員への期待

これからの時代、過去の成功体験は次には同じように通じない。明日の成功を妨げる最大の敵は今日の成功。成功したときから衰退が始まる。「前例踏襲」として昨年と同じことをやっていないかを振り返ること。事業実施が目的となっていないかを確認し、手段と目的をしっかり持っていることが大切である。

評価と改善も大切である。参加者数だけで評価するのではなく、アウトプット、アウトカムを大切にす。事業の終了後がスタートであり、アフターフォローが大切である。

社会教育関係職員は先入観にとらわれない豊かな発想を。できない理由を探すのではなく、できる可能性を探す人へ。そして幅広いネットワークを。社会教育では、ネットワーク（人脈）フットワーク（行動力）ハートワーク（傾聴）の3つのワークを大切に。



13:15~14:05 説明・演習  
「グループワーク討議の技法について」

講師 GOOD?WORKSHOP 溝 渕 清 彦 氏

1 アイスブレイクによる組織の成功へのプロセス

参加者を2つのグループに分け、グループ全員で一つのフラフープを人差し指で支えながら地面に近づけるアイスブレイクを行った。このアイスブレイクでは、ほぼ初対面の人がグループとなり（形成期）、フラフープを地面に近づけるという課題を与えられ取り組むがうまくいかず（混乱期）、課題解決のためにどうすべきかを話し合い（統一期）、一致団結して取り組む（機能期）という心理学者タックマンによる組織の発達段階理論「タックマンモデル」を体験した。数回挑戦し、両グループとも成功させることができたが、「自分のことだけを考えているとうまくいかない」「声をかけながらやってみたら成功した」などといった感想が挙げられた。



組織として、一つの目的に向かって成功させるためには、グループの関係性を良好にし、ともに考え行動する一連のプロセスが大切である。

2 グループ討議の技法



ファシリテーションとは、会議やチーム活動における成果が最大となるよう、中立的な立場でプロセス（共有・発散・収束・決定）に関与し、活性化を促進することである。自分の意見にとらわれず、積極的に相手の発言に耳を傾け、組織や参加者が自ら考えるように仕向けるための質問をする「きく」技術と、議論や意見の要点を見やすく記録（可視化）することにより組織や参加者が視覚的に議論の共有、整理をし、共通意見を見つけたり新しいアイデアが生まれるよう導く「かく」技術により、会議をより円滑に運ぶことができる。

※本説明・演習の後のグループワーク時、溝渕氏に、各グループが発表した内容をホワイトボードに書き込んだ「可視化」の例をご掲示いただいた。可視化には、情報や意見を書き出し、共通している部分やキーワード等を線でつないだり、イラストを用いるなど様々な方法がある。



14:20～16:20 グループワーク

「グループワークを通じた学びの実際」

進行 実行委員 千歳市教育委員会 川崎 美幸  
恵庭市教育委員会 中村 知暉

グループワーク「サザンクロス探検隊」

説明（千歳市教育委員会生涯学習課 主任 川崎 美幸）

グループワークをしていく事の必要性を楽しみながら実感していただく為に以下のような事を目的として行った。

1. 言語によるコミュニケーションの方法及びその難しさ、大切さ
2. グループにおける自分や他のメンバーの役割
3. グループで課題を達成する上での協力することの大切

各自カードが均等になるように配り、そこに書かれている情報を口頭のみで説明し、宝のありかまでの地図とそのルートを書き出す。

ルールとして地図に出来る情報はすべて書き出し、他の人にカードを見せたり、情報を一覧にして書き出すなどは禁止。

まとめ（恵庭市教育委員会社会教育課 社会教育主事 中村 知暉）

作成した地図の応え合わせをした後、個人ごとに振り返りシートを使ってふりかえりを行い、班内で共有。最後に各班で出た意見について発表を行った。内容については以下のとおり

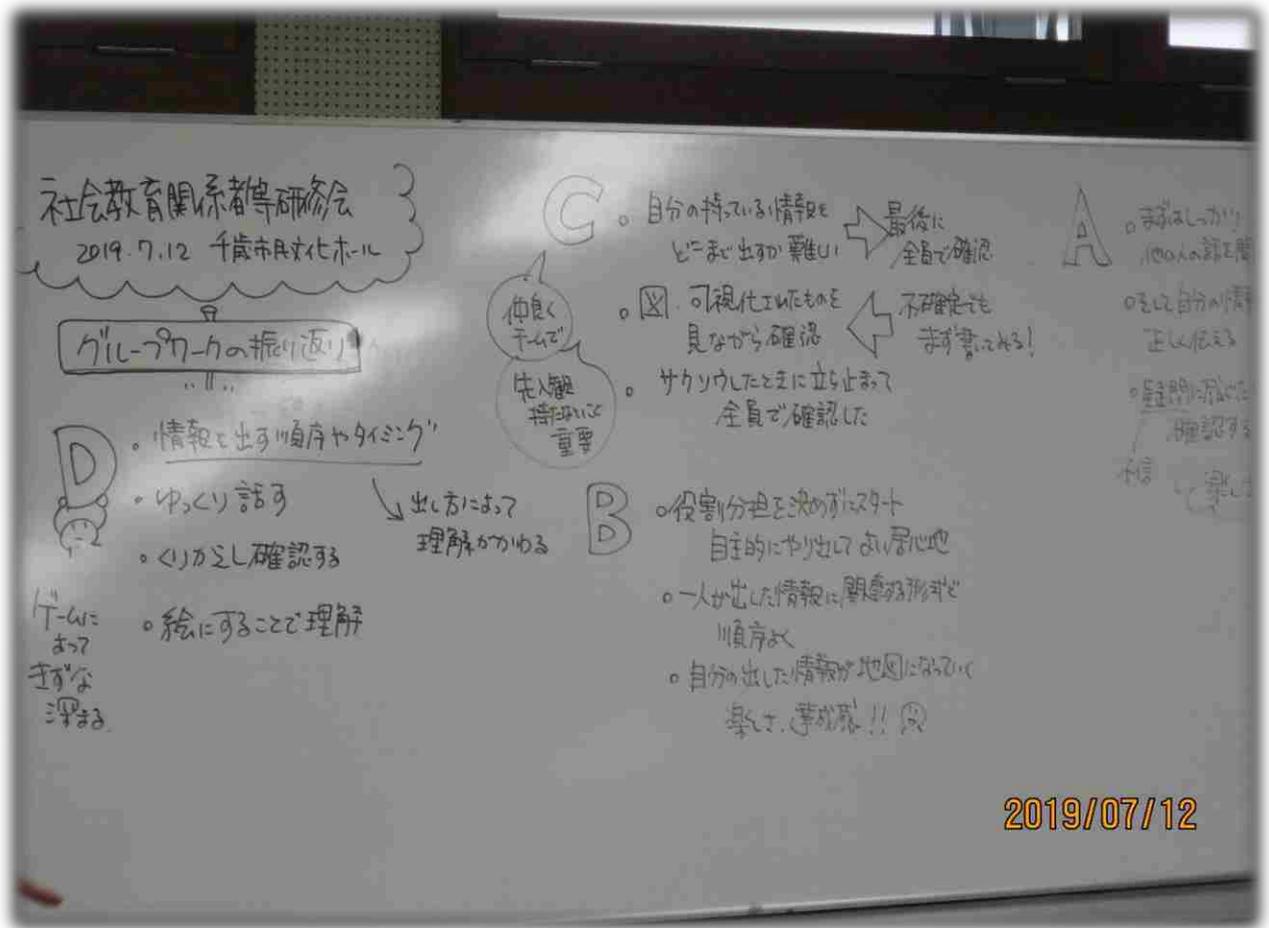
- A班**
- ・まずはしっかり一の話聞くことが大切だと感じた
  - ・それを踏まえて自分の情報を正しく伝える事が必要
  - ・疑問（不信感）をもったらしっかりと確認する事が重要。
- B班**
- ・役割をきめずにスタートしたがそれぞれが役割を自主的に見つけて行うようになり、よかった
  - ・1人が出した情報に関連するように、順序よくいったことがよかった。
  - ・自分の出した情報が地図になっていくことが楽しく、達成感が得られた。
- C班**
- ・自分のもっている情報がどこまで出すかが難しく感じた。
  - ・可視化されたもの（図）を見ながら確認することが大事  
⇒不確定でもまず書いてみる
  - ・錯綜した時は立ち止まって全員で確認する事も必要。
- D班**
- ・情報を出すタイミングによって理解の仕方が替わっていくという事がわかった
  - ・繰り返し確認する事の重要性がわかった。

○まとめ

グループワークを通して人と意見を交換して答えを作ることの難しさやそのために必要なポイントを体験・実感することができた。これから様々な場面で色々な人と対話をする事があると思うので参考にし、活かしてほしい。



各グループが発表した内容をホワイトボードに書き込んだ「可視化」の例（グラフィッカー：溝渕氏）



16:25～16:55 情報提供

情報提供 参加者（参加市町村）から

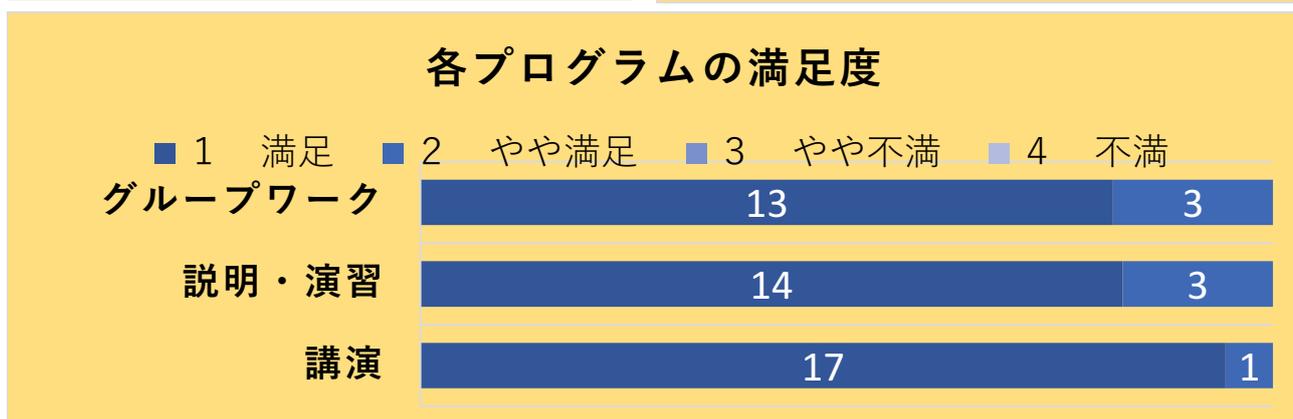
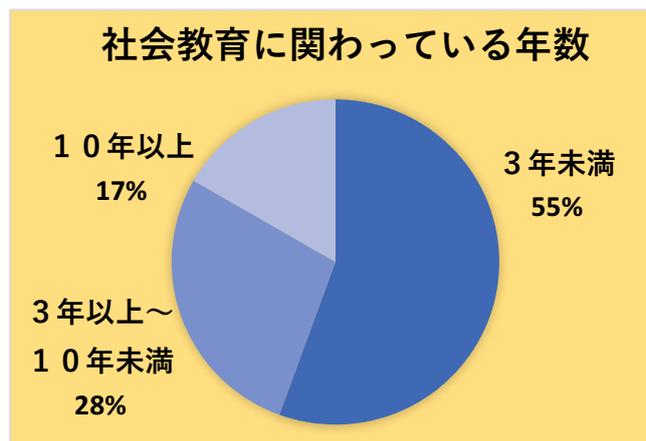
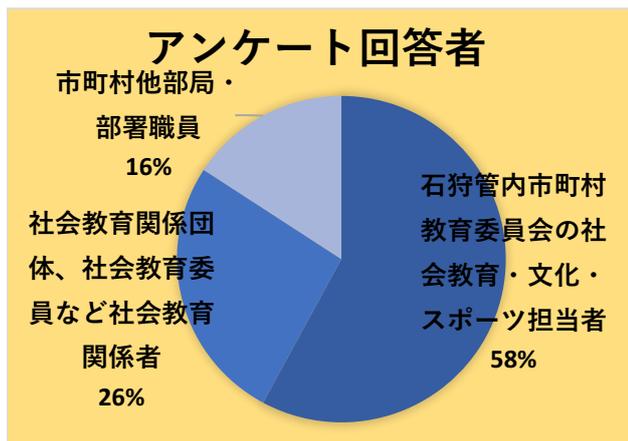


各市町村教育委員会から今後実施される事業、まちの最新情報等について情報提供があった。

また、石狩教育局からは7月の「青少年の非行・被害防止道民総ぐるみ運動」北海道知事メッセージ、児童虐待の通報、石狩教育局「家庭教育サポートセミナー」について情報提供があった。

16:55～17:00 閉会

# 令和元年度 社会教育共同事業「社会教育関係職員等研修会」 アンケート集計結果（参加者数24 回答数19）



## 講演の感想

・とてもわかりやすいお話しでした。貴重なお話しをありがとうございます。と、同時に耳の痛い内容でもあり、実感として日頃から感じていることばかりでもありました。今後どれだけ先入観を取り払っていけるか「社会教育」が社会に必要な取り組みであることをどれだけアピールしていけるかがポイントなのかなと思いました。

- ・社会教育の基本を理解できた。
- ・開会式社会教育は事業屋ではなく人づくりをする仕事ということがよくわかりました。
- ・大変わかりやすい講演でした。社会教育に関わって年数が浅いので私にはピッタリの内容でした。
- ・社会教育委員として地域の関わり地域課題に改めて目を向ける大切さを考えました。3ワーク、ネットワーク、フットワーク、ハートワーク本当に大切と実感しました。
- ・社会教育について改めて学習することができた。また気づきがたくさんあった。
- ・社会教育委員として何をしていかなければならないのか、何が必要なのか、どうあるべきか、少し分かったような気がします。
- ・とてもわかりやすいお話しでした。これから地域住民と共に社会教育とは何かを考えるうえで参考にすることができる貴重なご講演でした。
- ・脱、前年踏襲。

## 説明・演習の感想

- ・ファシリテーションのもう少し具体的な実践方法を聞けると良かった。
- ・アイスブレイクでやったフラフープがおもしろかったです。プロセスが大事だという話に共感しました。
- ・今更ながらファシリテーションの大切さを学びました。行政からおしつけられた(?)会議だけでなく自ら考え理解した上で質問できる社会教育を考えていきたい。
- ・演習の時間が足りずやや物足りなかった。講師の話をもっと聞きたかった。
- ・話す、聞く、書く→「会議の成果」→課題です。
- ・アイスブレイクはとても興味深いものでした。ファシリテーションの進め方は難しかったと思います。
- ・内容は難しかったですが、大変勉強になりました。
- ・ファシリテーションの基礎のこと、協働する上で大切なことを学びました。

## グループワークの感想

- ・とても楽しかったです。一つの目標を達成するためにグループ一丸となり取り組んだのでキズナが深まりました。
- ・なかなかよいゲームでした。それぞれ協力の大切さ、情報の共有なかなか皆んな良い方向で学びができたと考えます。
- ・アイスブレイク、合意形成には適した内容だった。
- ・「コミュニケーションゲーム」については自分の情報を的確に伝えることの大切なことと、それを聞いてくれる方との信頼関係の大切さを感じた。
- ・説明・演習により関係のあるものだと尚良かった。
- ・皆が素直に体験しようとする積極性が発揮され楽しくできたのですが、これを実際に成人の事業に持ち込むことには少し勇気が必要です。
- ・楽しく合意形成できました。
- ・全体で助け合いながら、良い雰囲気が進みました。楽しかったです。

## 「その他」の欄

- ・社会教育の入口、基本を知る機会として、良い内容であったと思います。
- ・このような会議の内容については聞くことだけの会議ではなく、参加している意味を感じた。
- ・社会教育経験がない方向けの研修会だったが、改めて気づかされることも多く、とても良かった。
- ・説明・演習の内容とグループワークがうまく噛み合っており、難易度の設定も絶妙で非常に楽しく学ばせていただきました。
- ・楽しい気づきの多い研修でした。ありがとうございました。